

K I I T O

アーティスト・

イン・

レジデンス

2018

椎原保





A



B



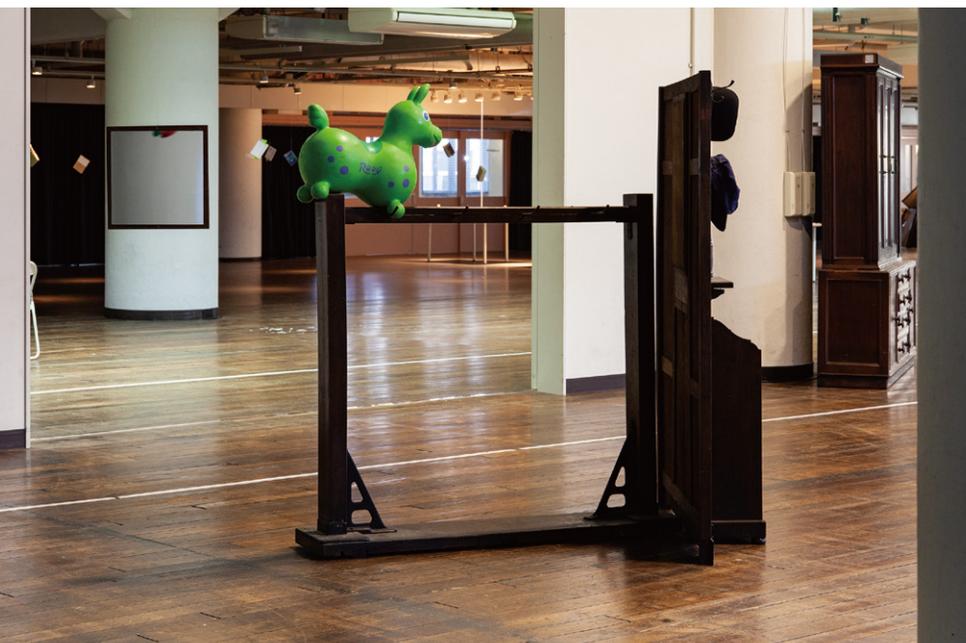


D

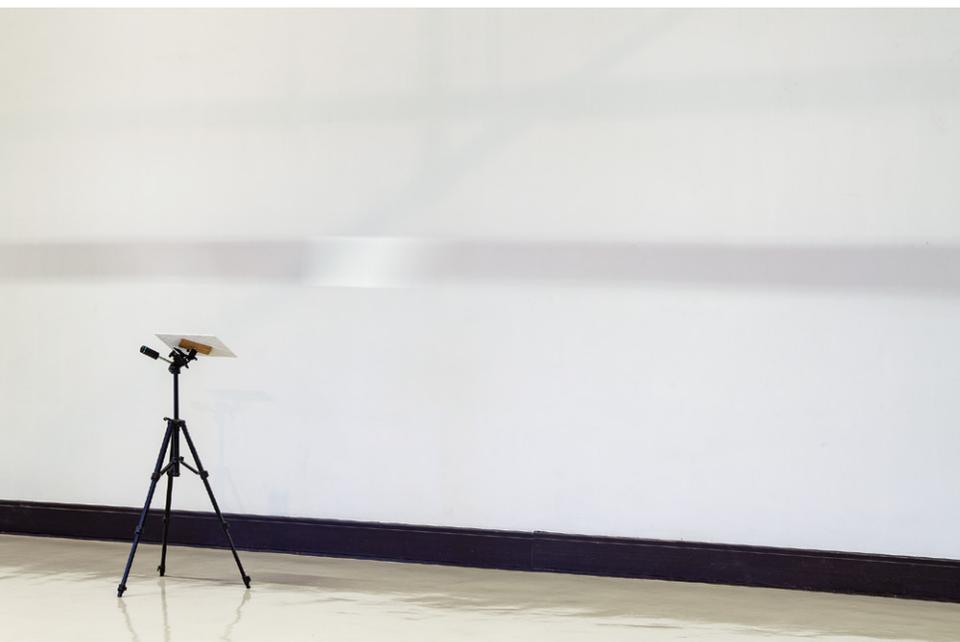


E









H



I



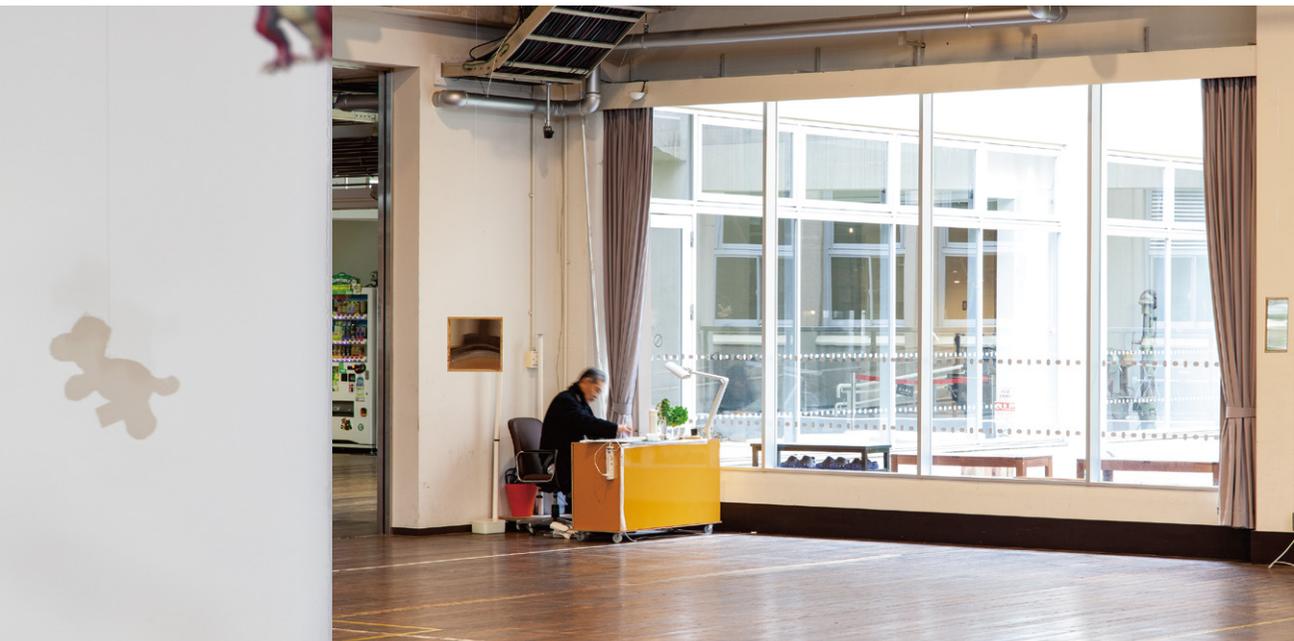




る



L



KIITOアーティスト・イン・レジデンス2018

椎原 保

滞在制作期間：2018年6月～2019年4月

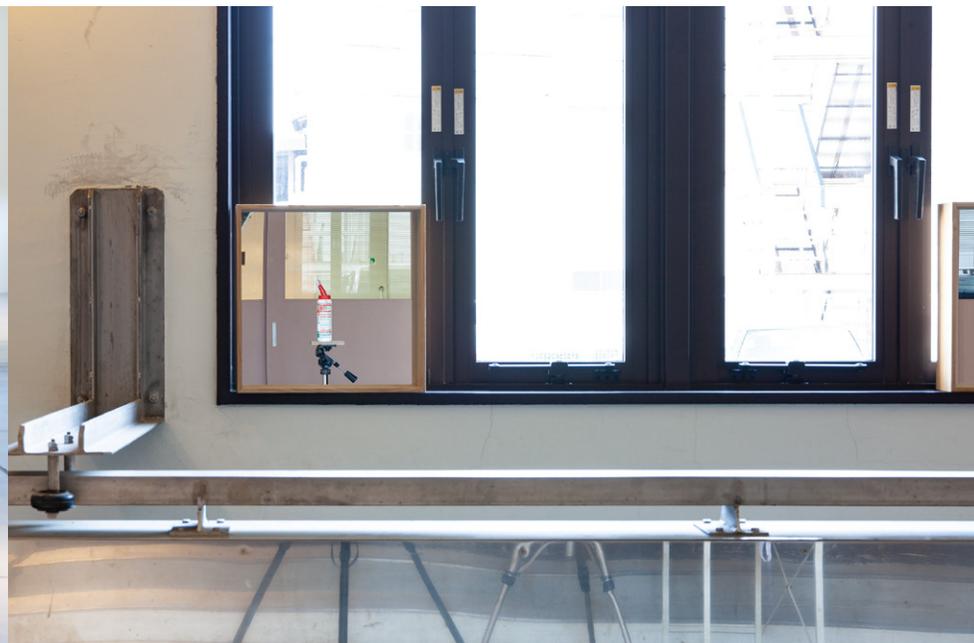
主催：デザイン・クリエイティブセンター神戸

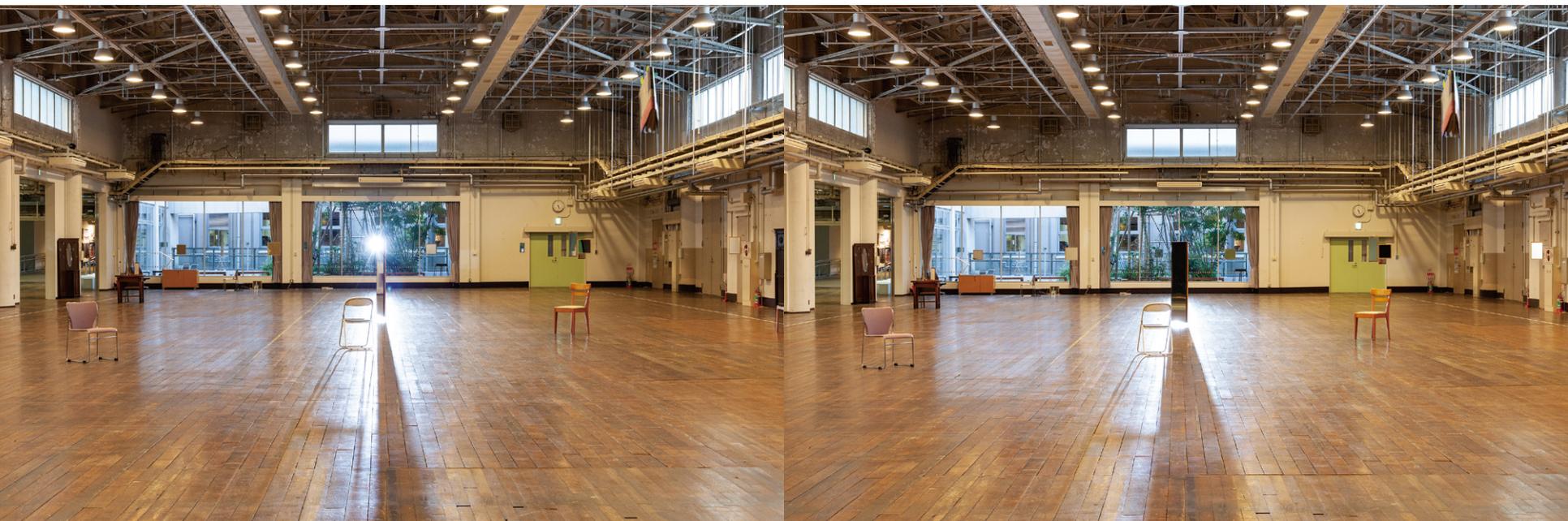
展覧会「旅する KIITO」

会期：2019年3月15日(金)～4月7日(日)

会場：デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO) 1F、2F

M





N

O









い



ト



U



V







W



X



と





## 椎原保からの e-mail

椎原保から、KIITOのレジデンス担当者・佐藤真理に送られたメールを転載。

レジデンス内容と展覧会企画が  
かたちを成していく様子が記録されています。  
なお、メール原文を活かしているため、  
乱文乱筆ご容赦ください。

— 5/24 KIITOから打診

— 5/31 KIITOにてミーティング

— 5/31 16:57

今日はありがとうございました。  
あれから、少し居て失礼いたしました。

「感じることを、編集する」という考え方で、制作を進めることになると思います。

ふだん感じてはいるけど、気が付かないことに気づき、その連続によって、感じる内容にイメージーションが湧き、クリエイティブなことが生まれる、、、そうしたことを期待します。

そもそも、感じることは個人的な内面の出来事だと思っています。突き詰めると人によって違いがあります。

そうしたことを前提として、意識をし、場と時間を他者と共有することで対話が生まれ、そこにイメージの膨らみができると思っています。  
完全に一人の感覚で作るというより、共有することです。

まだまだ具体的ではありませんが、そんなことを考えています。

場所は、ホール、A、B、カフェ横のスペース、中庭は押さえておいていただけると助かります。一階の全域に近いですね。  
周囲をプレーンな状態にしたいと言うわけでもありませんが、一つのスペースではなく、連続性のある分節と考えたいと思っているので、そうできたらと考えています。

あるいは、あっちとこっち、そこではない向こう側との関連といった感じですが。

まだ、帰りの電車の中ですので、今日はこれくらいとしておきます。

— 6/12 レジデンス開始

— 6/12 17:28

次は、木曜日の午前9時を目指して来ます。夕刻は5時ぐらいまでいる予定です。この日は、夜に同志社のソーシャルインベーションのプログラムがある日なので、5時過ぎには出ないといけません。

以下は、希望と提案です。

①自転車の鍵、、、事務室の入り口ところに掛ける場所があり、誰が使っているかが分かる札と交換して鍵を持ち出すシステムはどうでしょうか？

②廃材他、、、長い棒など、仮に組み立てたりマーキングに使えるなど、汎用性のある様々な材料があるといいですね。大型ゴミスペースから、何か使えるものを探すとか？

③椅子、机、台、戸棚、古い家具、使用していない倉庫に入ったものなどを見せてください。できるだけすべて。汚くて使えそうにないものを含めて。

④ロッカー、、、まずは、僕が鍵を持ちっぱなしにできる貴重品を入れておく場所が必要です。

いずれにしても、次回は小さなスーツケースでいきます。それがロッカーになるのであわせて考えましょう。

KIITO内の会場や倉庫を見てまわる。自宅から道具や素材を少しずつ持ち込む。自転車も。1階の倉庫を空けて、レジデンス用の倉庫に。KIITOの余った木材を使って、中に棚を作る。1階での制作を希望。移動して制作できるように、キャスター付きの作業机をつくる

■ 6月のレジデンス日数：4日

— 7/8 19:21

なんか災害続きで、なかなか大変ですね。そちらは、大丈夫でしたでしょうか？

なかなか、車で行く日がつくられずにいます。

来週は、火曜日、木曜日に行く予定です。音と光のテストが主な予定です。車で、工具など持って行ってから台を作ろうと思っていますが、来週、そちらの工具を使って作り始めるかなとも思っています。甲南大学の仕事が一段落すれば、予定が立てやすくなります。

— 任意のKIITOスタッフと一人ずつ対話。1人平均2.5時間

■ 7月のレジデンス日数：4日

—— 8/6 13:18

やはり、今日は行くのは無理みたいです。  
明日は早くから行こうと思います。

先日、戴いたバンは、たいへん美味しかったです。子どもたちが作ったとは思えません。ありがとうございました。

「ちびっこうべ」の子どもたちがワークショップで作ったパンを試食

— プレスリリース発信に伴い、ポートレートを撮影  
— 8/20 副センター長・永田宏和+スタッフと懇親会で北野の天竺園へ

■ 8月のレジデンス日数：11日

—— 9/5 9:23

今日行く予定をしていましたが、行けそうにありません。1日中台風の後片付けと修理で時間が取られそうです。  
修理は、土蔵の窓が落ちていたので、修理方法を考え、材料を入手しないといけません。瓦も飛んでいるのですが、こちらは本業に任せる予定です。

そちらは大丈夫でしょうか？

—— 9/10 11:41

本日、行けなくなりました。  
こういうことが多くてすみません。なんか、時間だけが過ぎていきます。  
今日は、夕方に子どもの通院(柔道で足を骨折かヒビがはいったか?)に行かなくてはならなくなりました。合わせて、その後柔道教室に行きます。

今週は、あと水曜、木曜と行く予定です。金曜日は微妙です。行けるかもしれません。  
光のテスト、吊り下げのテスト、台の取っ手、LEDのはんだ付け、道具と材料、デスクの整理と仕上げ、プランニングを予定しています。

— 主な制作場所が2階に移る。来館者から話しかけられる機会が増える

■ 9月のレジデンス日数：10日

—— 10/2 13:47

まもなく着きます。  
元町から大回り、ホテルオークラ、フィッシュダンスホール経由で来ました。

—— 10/5 15:02

今日は、あるき回っています。

—— 10/5 15:10

ディープ過ぎてあかん、、、  
都築響一になってしまう。

しかし、もう少し

—— 10/7 18:50

今日は、エキサイティングな日でした。  
来週も、ちびっこうべに来ます。

今日、来てちびっこうべとクロスするアイデアがあります。

奥の部屋、スタッフオンリーにしながらも、お話ができる人を募集して引き込もうかと考えています。その時は、スタッフオンリーの札(フダ)をひっくり返して、「アーティストと対談中」にしようと思っています。他の言葉がいいかもしれません。

どうでしょうか？

10/7「ちびっこうべ」まちオープン日を見学

— 10/13・14 「ちびっこうべ」会場脇で来館者5~6人と対話。「ちびっこうべ」の記録撮影に来ていた写真家にその様子を撮影してもらう

—— 10/15 19:02

今日は、三ノ宮界限、サマーシュ(休みでした)、兵庫県公館に行ってきました。兵庫県公館で、公文書資料を見せていただき、資料管理されている伏谷さんのお仕事の邪魔をしてしまったかもしれません。2時間近くの会話になってしまいました。

色々考えることが出てきました。郡の廃止についての分厚い資料を手元で見せて頂きました。  
郡廃止は、明治時代からの話ですが見せて頂いたのは大正10年から11年の資料です。  
兵庫県の初代知事は、伊藤博文なんです！知りませんでした。

今日は、一日中の歩きでした。  
その、兵庫県公館から出てこられたおばあさんに声を掛けそびれたの、やや残念です。

今のところ、話しをするばかりでどういう方向へまとめるかが、まだ決まりきりません。かなり、不安ですが、、、



Y

— 地下探検ツアーに協力してくれる子どものリサーチ

— 10/16 17:04

昨日は、知事と話す会が150周年事業の一環として行われていました。昨日、見せて頂いた資料が大正10年と11年の話だったので、どんな人が知事をしていたのかなあ—と試してみたら折原巳一郎という人でしたが、僕と風貌が似ていました。

眉毛がちがいますが眉毛を隠すと、、、あれっ、、、という感じでした。家に帰って、ホンマやと、、、みんな大笑いしました。

—昨日も、読売テレビの元プロデューサーの橘さんとお話をしていたときに、なぜか真正面に向き合って話をするのがあり、一瞬ですが鏡を見ているように感じた時がありました。

自分と他者の違いを追い求めながら、その人の存在を立ち上がらせたいと思っているにもかかわらず、むしろ他者に自分の姿との同一性を探すことになっているのかと思うことが続いています。

加古さんと話をしているときも、兄との話になった時にそう思いました。

今日も、サマーシュ周辺から北野界限をうろろしながらKIITOにきています。

昨日、サマーシュの休みの日を確認していなかったで失敗しましたが、、、今日も休みでした。木曜日からのようですね。

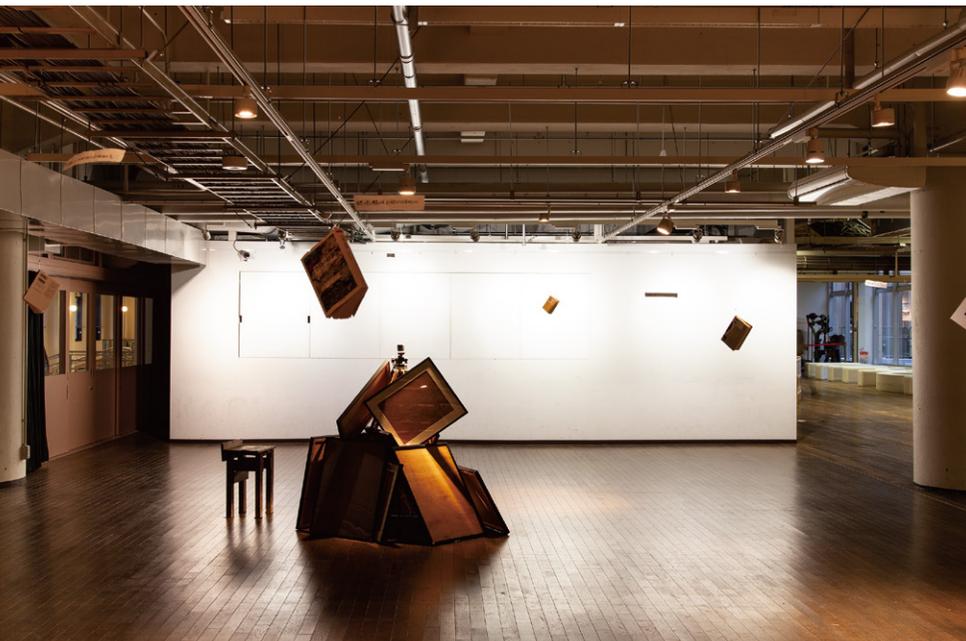
サマーシュからまだ山手の方に行ったところにあるルパンでバケットを買ってかじりながら、周辺を歩きました。

北野界限は、観光客が多く声を掛ける感じではないかな—と思っていたのですが、3人ほど声をかけることができそうな人はいません。いま整理中なので、今日のところは声掛けをしていません。

懐かしい北野サーカスがあったところは寂れていました。斜め向かいの安藤忠雄設計のローズガーデンも、これが安藤忠雄の設計かな—と思う感じでした。時代は移り変わり、風景も、その時の思いも、なくなっていくものですね。

来週は、広いスペースか中庭で作業をしたいと思っています。テストを含め、、、

あと、地下の方向へ行くのと、中庭を触るにあたって一階の屋上スペースへ出てみたいと思っています。寒くなる前に。



Z

それと、来てまもなく案内していただいた時に、色々な部屋を回りましたが、もう一度回りたと思っています。

かなり広いスペースなので、何をどのように配置できるかのシミュレーションをするためのテストです。

佐藤さんのスケジュールが立て込んでおられたら、その次の週に渡っても構いません。その後大風呂敷にと、、、

—— 10/20 13:44

お子さんは、無理のないようにしてください。

想像力が豊かで、好奇心がある子がいいのですが、暗いところが怖い、ホコリなどにアレルギーがある方は避けたほうがいいと思っています。想像力が強い子は、怖がりかもしれません。

僕もそうでしたから、、、しかしながら、好奇心が勝っていました。

なんで怖いのか、確かめに行くという感じです。

—— 10/21 地下探検ツアー参加候補の子ども2人と面会

— 展示物制作補助のアルバイトとLEDのはんだ付け作業

■ 10月のレジデンス日数：18日

—— 11/20-23 KIITOホールにて展示テスト  
—— 11/23 子どもと地下探検ツアー。子どもと一緒に気になるものを写真に撮ったり、採集したり、真っ暗闇で見えるもの、音の聞こえ方を確かめたり

—— 11/26 14:48

記録としてのメモを送信しました。  
何かしら感じられたことがあれば、よろしくお願いします。

—— (以下、記録より抜粋) ——

●彼らは好奇心のかたまりだった。

不思議なこと、普通でないこと、いつも見えないようなちょっとした違いを見つけるのがとてもうまい。うまいだけではなく、謎について考えたり、記録を取ったりを続ける。

続けることができちゃう無尽蔵な源があり、疲れたと言いつつも動き続ける。継続する時間。そこに留まらないというのは、そこに世界との関係を見出している彼らが見つけた意味が存在して、それと向き合っていること他ならない。



a

2人の興味は全く違った。

■ 11月のレジデンス日数：14日

— 展覧会用の広報物制作開始。デザイナーとのミーティング  
— 12/15 「Designers 18 写真家として生き残るため 何が必要と思ったのか?」に参加

■ 12月のレジデンス日数：14日

— 展覧会広報物用の写真を撮影する。行き先は布引の滝など

—— 1/11 14:28

神崎さんのアイデア、

なかなかいいプランだと思います。

佐藤さんの、折るバージョン、折らないバージョンもいいと思います。

そして、上下左右、、、裏表も、、、それぞれ両方の案内が立ち上がるような、、、

それでいいと思います。

まったく作品とは関係ないかも、あるかも、、、しれませんが、ブルーとイエローというイメージあります。

昨日、イエローのLEDを購入(200円)をしました。

広報物の中に黄色を入れてはどうかとミーティングで発案。デザイナーはKIITOのロゴと、写真に写る2つのガスタンクを黄色に着色した

— 季刊誌「KIITO NEWSLETTER」用の取材を行う

—— 1/23 10:34

横浜の国立研究機構の方のようです。話も弾んで終了そうもなかったのですが、もっと話をしたかったです。

なかなか出会わない出会いが多くあり、僕にとってこのレジデンスはたいへん収穫多いプログラムとなっています。

■ 1月のレジデンス日数：17日

—— 2/1 1:48

きょう、関西学院大学の建築のイベントが一階であり、学生が数人見に来られました。また、たいへん興味を持っていただけ、長い時間話をしてしまいました。そして、搬入を手伝っていただけることになりそうです。2人の学生ですが、何人か連れてくれるようにも言っていました。明日か、明後日ぐらいで、この日はいかがでしょうかという提案をすることになっています。学生のことなので、まだどうなるかわかり



b

ませんが、、、

明日で、細かなプロセスの仕事は終わりそうです。次は、音響のテストです。

— 2/5 海洋学者・青木さんのKIITO訪問の感想

— 2/6-8 KIITOホールにて展示テスト

— 2/26 21:54

今回、お話をさせていただいた方達との出会いは、偶然とはいえ、偶然とも言えない時間の流れを感じてしまっています。スタッフとの出会いを含めて、、もちろん、佐藤さんもその一人です。

そういう意味で、テレビのプロデューサーであったり、海洋学者であったり、考古学者の方であったり、、スタッフとのつながりも、色々な発見や気づかされることがあり、出会いとは不思議なことだと思っています。

■ 2月のレジデンス日数：21日

— 3/1 19:18

僕の仕事の流れとして、制作をしていて、直感的な内容が見つかれば、それに振り掛かるということになるので、なかなか予

定が立てられないということも確かです。

二階の部屋の影を取り込むとか、、とかも、この流れでの制作です。なにかを完璧にするより、そうした作業が優先されます。やってみないと始まりません。

4日に、写真の加工し以前に使用したものを持ち込もうと思っています。

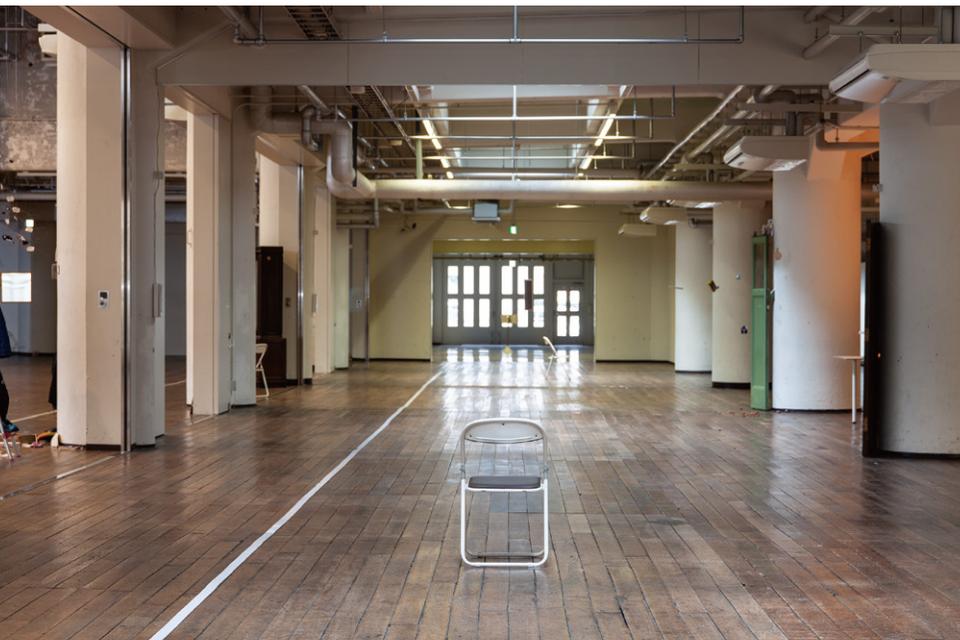
写真の印刷についても、同様です。昨日帰宅時にいい写真が撮れました。

— 3/10 8:55

トランスミッターの性能が良くてラッキーだったです。POSの方は、本当によくしてくださっています。安心できます。ありがとうございます。

僕の作品制作スタイルのせいもあって、見た目、決まり切らない、無計画なことにはなっています。そこでの滞在時間がプランを育ててくれる感じです。布引に写真を撮りに行った時、計画をされていてうまくいかない時もただでは帰らず、それをそのままにして時間を掛けることで新たな展開があったりします。

計画性のある、論理的で恣意性のある手法では、それで終わってしまうような表現



になってしまいつまらなくなります。なにを意味しているかわからない抽象的な関係を連続していくという中に、全体のカタチがみえて繋がってくるといった感じです。その時も、全体のカタチが見えすぎると違うかなと思ひ、躊躇してしまいます。

関学の乾さんは本当に心強いです。月曜日からの4日間出来るだけ来てくれることになりました。出会いとは不思議なものです。彼と対話することで、プランが進みます。昨日も僕の身体を気遣い、ただのアシスタントではない感じで、作品作りを共有できます。

— 3/4-14 展示設営

— 3/15 22:13

あした、本当に親身になってよく手伝ってくれる乾くんがきます。彼らに出会えてよかったです。

こんなことがあるんですね。

— 3/15 「旅する KIITO」会期スタート。制作場所を展示会場内に移して、制作は継続。18:00からオープニングイベント。本人による展示解説と、soratobi tableによるケータリング

— 3/16「オープンKIITO」。展示会場内でカホンを作るワークショップや演奏会、「パンじい」のパン作りなどが行われる

— 3/17 14:04

さきほど、また、橘さんに会いました。やはりクリエイターの方だと思いました。なんの説明なく、じっと見ておられて感動していただきました。何回かまた来るとのことで、鏡を差し上げる約束もしました。その時に、偶然にお知り合いのならばさきさん？お名前を聞き逃しましたが雑誌編集の古い方と向かい側のピンクフロイドのイベントをされていた立川さんもおられ、見ておられましたが、今日のKIITOであるピンクフロイドのイベントの準備があるので終わってから来るということでした。

— 3/20 12:00

昨日、安井仲治さんのご子息、と言いましたが80後半の方です。たいへん好奇心旺盛で、色々なことに興味を持たれ、奥の部屋のブルー・ノ・タウトのドイツ語を読まれて、長い時間を過ごされ行かれました。来られまして、2時間以上お一人で見ておられたこととなります。その後お話をし



いて、色々感じたことがあるので、仮設壁の通路奥の部屋のグレーの吸音板にグレーの反射布の切抜き文字を貼りたいと思っています。自然に感じられていた世界をもう少し確かなことにするためです。

クリエイティブなことをされている方には、たいへん刺激となる展示になっていると思います。少しずつ、やろうと思っていたしていなかった文字の部分をしていこうと思っています。

—— 3/21 20:59

昨日は、お話をすることが多く、奥の部屋に設置できませんでした。

村上さんという方は、1時に来られて随分長く滞在していただきました。

写真関係のある人づての紹介で来られましたが、関西テレビのディレクターをされていた方で、すごく謙虚な方でした。

それと変わったところでは、KIITOの喫茶に来られた方が気になって荷物を喫茶に置いたまま見にこられて1時間半ぐらい荷物置きっぱなしで見つかれました。なんかすごいって言って、随分と話をしてみました。

KIITOの建築事務所の若い方も、熱心に見ていかれました。

—— 3/26 20:06

まだいます。藤さんのゼミ

藤浩志さんが講師を務める公開ゼミ「人口減少時代の豊かな暮らしを神戸でデザインする」を聴講

— 振付家・岡登志子さんが会期中に複数回来場。4/7には会場内で即興の踊りが行われた。作家とたまたま届合わせた来場者数名が見届けた

■3月のレジデンス日数：ほぼ毎日。展示のアップデートと来館者との対話を行う

— 対話した人数212人(3/17からのカウント)

椎原 保 SHIIHARA Tamotsu

1952年大阪府池田市生まれ、京都市在住。京都市立芸術大学美術学部西洋画科卒業。主な展覧会に、1984-5年「現代美術への視点—メタファーとシンボル」展（東京国立近代美術館／国立国際美術館）、1985年「アート・ナウ'85」展（兵庫県立美術館）、1998年「椎原保+藤枝守」展（佐賀町エキジビットスペース）、1999年「線の表情」（国立国際美術館）、2014年「無人島にて—「80年代」の彫刻/立体/インスタレーション」（京都造形芸術大学ギャラリー・オーブ）など。

下記5名の関西学院大学の学生たちとは、制作期間中にKIITOで偶然に出会い、建築、都市、作品のことなど多岐にわたる自由な話をしました。そして、自主的にアシスタントとして協力することを申し出てくれました。彼・彼女らは、作品をよく理解をし、部分的にはコラボレーションと言えるぐらい自由な活動のアシストをしてくれました。短期間に信頼関係を築ける、優秀な学生たちでした。記して感謝の意を表明します。

乾 拓真 平岡 里菜  
本間 達明 取越 和貴  
清家 嵐

また、本事業の開催にあたり、下記の方々にも多大なるご支援、ご協力を賜りました。記して感謝の意を表明します。

青木 邦弘 森 すみれ  
橘 功 宮本 孝一  
加古 祐樹 伏谷 聡  
尾崎 公星 長谷中 理恵  
高橋 昂我 埴岡 寿子  
岡 登志子 西島 里咲  
株式会社POS建築観察設計事務所 横村 萌実  
soratobi table 向上 沙希  
廣 有利佳 坂本 尚矢  
松下 岳生 福嶋 舞

その他、対話して下さった方々  
(順不同、敬称略)

記・椎原 保

KIITOアーティスト・イン・レジデンス2018 椎原 保  
ドキュメントブック

写真 加納 俊輔  
デザイン 神崎 奈津子  
編集 竹内 厚 (Re:S)  
発行 2019年3月  
制作・発行 デザイン・クリエイティブセンター神戸  
〒651-0082  
神戸市中央区小野浜町1-4  
TEL 078-325-2235 info@kiito.jp  
http://kiito.jp/

本書は、KIITOアーティスト・イン・レジデンス2018の  
成果報告として発行しました。  
本書の無断複写、転載、引用などを禁じます。  
(c) SHIIHARA Tamotsu / Design and Creative  
Center Kobe All rights reserved.

KIITO

## 同梱紙について

---

1. しおり型のもの／本誌で掲載している写真のキャプションです。写真は加納俊輔によるもの、「旅する KIITO」会場で撮影されました。
  2. 四つ折りのもの／椎原保による制作についてのメモ書きです。写真は、椎原が「旅する KIITO」広報物のために撮影したものです。
  3. カード型のもの／レジデンス期間中、椎原保が携帯電話で撮影した写真。会場で即興ダンスを披露してくれた岡登志子さんやKIITOからの帰り道の夜空なども写されています。
- ※ 椎原保が携帯電話で撮影した動画も公開。QRコードからもリンクしています。

<https://tabisuru-kiito.tumblr.com/>



K | 中庭に仕込まれた鏡が室内を写す

J | 棚の裏にも鏡を向ける

I | レジデンス期間中に椎原と対話したF氏から借用した書籍を展示

H | 2階の白い壁に天井付近のスプリングラーが影を落としていることに気づいた椎原、その影の幅にあわせて鏡の光を反射させた

す | ドアのガラス越しに、暗い部屋で浮かび上がることは「いつもとちがう感じ」

G | 会場に置かれた本から第三者が抜き出した断片的なことば。別の場所には椎原が抜き出したことばもあった

び | 展示会の期間中も制作は続いた

F | 2階のライブラリと男子トイレの間の屋外。空を見上げなくても鏡越しに空が見える

E | 中庭にも鏡。最終的には中庭だけで20枚ほどの鏡を設置

D | 椅子は椎原の自宅から持ち込まれたもの

た | 青い破片は、SMIIOの外にある植栽で使われているクラッシュブリック

C | どこからか滴る水の音が聴こえた

B | 2階の窓を開けて地上をのぞく。鏡を見つけて自分と目が合う

A | 場内の人が生んだ空気の流れでゆっくりと回転する鏡

b | レジデンス後半に主に制作していた2Bの部屋

a | レジデンス前半は主にこの部屋で制作。展示では丸が多い空間に

Z | ギャラリーAの奥の白い壁には照明を集中して当てた。展示は平行を意識したものに

Y | スニッホールの展示は垂直を意識。スニッホの建物が生糸検査所だった頃に使われていたキャビネットや帽子掛けも配置  
と | スニッホとして改修される前の建物写真。生糸で吊るされている

W・X | レジデンス期間中、ふたりの子どもとスニッホの地下を探検。子どもたちの写真や採集したものを配置

U・V | 父で写真家の椎原治が使っていた額を積み上げた

い・T | フライパンに石。机上の鉛筆で何か書けば音が出る

R・S | 切り紙のシルエットは、レジデンス期間中に対話をした人たち。その対話から派生したことばやものも配置された

P・Q | 同じ空間に置かれた、多木浩二『生きられた家』と、ミンコフスキー『生きられる時間』は椎原の蔵書

き | ブルーノ・タウトの『画帖 桂離宮』も閲覧できる状態に

N・O | 回転する鏡の向こうに、中庭手前のメタルハイドランプ。対面の壁に強い影をつくる

M | 展覧会の期間はほぼ毎日、椎原は会場に滞在して対話と制作を続けた

L | 椎原の自宅からはおもちゃや楽器なども持ち込まれた

る | タコ糸で吊るされたダイス

感じることは  
まさに  
旅だ。

いつもとちがう感じ

作品といわゆるものではないこと

オープン  
アーティスト インレジデンス  
の場

旅する ... 偶然の出会い

現実だけれども ... 現実ではないこと

《感じるこの場》

作品が生まれる  
インスピレーションの場として

虚像 ... イマジネーション  
白日夢 ... インスピレーション  
妄想 ... ユブキ  
... 気分 ... 思考

眼が思惟する  
グル・カト ... 桂離宮  
言葉にしない世界観  
愛でる (めぐる) こと

感じることは ... 集約の出来事、場、人  
光、風、空気感 ... 他

論理

向きあうこと

見上げる ... 向う側

とびら ... 動向と向きあう  
俯瞰 ... 机 ... 考えや作業の向き合い

こぼれた作業からの  
スルー

現実ではないこと ... 《金鏡》 ... 自分と向きあう  
いえない虚像 ... 《景分》 ... と向きあう

人と向きあう ... 《対話》 ... 自分と向きあう

妄想として ... 自分と向きあう ... 《壁》 ... 扱えしを受けとめる  
対象としての場

自分の内面 ... 《興味》 ... 自分をひきつけ  
向き合わせるもの  
と向きあう

言葉と出会う ... 《本》 ... メディアとしての本ではない  
書物としての本から向きあう

世界  
向きあうことのできる  
すべて  
・空間や時間  
でまこととして  
・壁  
・金鏡  
・景分  
・事物  
・人  
・音・光  
・変化

現実の場 ...  
... 生まれる

新鮮な ...  
《世界》

断片として本を促える

